Twinkle 東京女子医科大学学術リポジトリ
Tokyo Women's Medical University - Information & Knowledge Database
https://twinkle.repo.nii.ac.jp

Interatrial Conduction Time Can Predict New-Onset Atrial Fibrillation After Radiofrequency Ablation of Isolated, Typical Atrial Flutter

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-02-08 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 逸見, 隆太 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.20780/00032082

様式（6）

学　位　審　査

学　位　番　号	乙 第 2949 号	氏　　名	逸見　隆太
審　査　委　員　会	主　査　教　授	清水　達也	

論文審査の要旨（400 字以内）

心房粗動に対するアブレーション後、心房細動(AF)の新規発症が認められる。本研究ではこのアブレーション後の AF 新規発症と心房のリモデリングを反映するとされる心房内伝導時間(interatrial conduction time: IACT)との関連性に着目、その相関を検証している。心房粗動アブレーション後の連続80症例を対象とし平均観察期間は4.1±2.5 年、AF の新規発症は22名であった。多変量解析の結果、IACT は心房粗動アブレーション後の AF 新規発症の独立した予測因子であり、最適なカットオフ値は 120ms であった。このように延長した IACT は、心房粗動アブレーション後の AF 新規発症を予測しうると結論している。本研究結果は心房粗動アブレーション後の不整脈の適切な経過観察ならびに抗凝固療法必要性の判断において臨床上有用なものと考えられる。また、申請者は心臓電気生理学の知識ならびに論理的思考能力を有しており学位を与えるのにふさわしいと判断する。